第14号
平成17年7月2日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

1．利賀村の中学生が富大を訪問

木々は緑の葉がおいしげり、夏の到来を感じさせる季節となりました。そんな中、富大に若々しい訪問者が訪れました。

去る5月12日（水）、利賀村立利賀中学校より、5人の中学生が（３年生４人、２年生１人）、進路学習の一環として富山大学を訪れました。生涯学習教育研究センターからは、教育学部技術棟ミーティングルームにて、大石センター長・副学長による大学全体に関する説明（「富山大学のこれまで・これから」）が行われました。

生徒たちは、教育学部市瀬研究室で研究内容の概略と超伝導に関する実験風景を見学した後、教育学部松本研究室で院生たちとの交流を行いました。その後は、図書館等を訪問し、充実した一日となりました。

その後、参加者からの便りが届きましたので、いくつか紹介します。



○大学にすごく興味があり、どんなことをやっているのか気になっていました。一番の思い出は学校の施設の説明です。

○一番びっくりしたのは、富山大学が都道府県に各１つづつ（の国立大学）ということでできたということです。私は県立だと思っていたのでおどろきました。

○実際に使われている教科書なども見せていただき、とても分かりやすかったです。皆さんに教えていただいたことをこれからの進路選択に生かしていこうと思います。

○前から液体窒素の実験をやってみたくて、とても楽しみにしていました。なかなかできない貴重な体験をさせていただき、とても楽しかったです。

2．生涯学習の需要について



生涯学習教育研究センターでは、2003年10月～11月にかけて、市民（主に本学公開講座を受講した経験のある方）を対象に、学習需要調査をおこないました。その結果、1052件中370通の回答があり（回収率35．2％）、『生涯学習教育研究センター年報』第６巻にまとめました。ここでは、主な結果を紹介したいと思います。

（１）学習してみたい事項

回答者に64にわたる学習項目から「今後学習してみたい」ことを選択していただいた結果、回答数の多かった順にみると、「英語」27．5％、「税金や年金・保険の知識」18．1％、「デジタル画像・動画の編集技術」14．3％、「コンピュータネットワーク」12．8％、「ウォーキング」12．4％の順になりました。多様化・高度化が進む生涯学習の領域ですが、こうした学習機会の要望に応えることができるかどうか、他の学習機関との連携やすみ分けをどうするか、検討を進める必要がありそうです。

（２）学習阻害の要因

「学習したいができなかった」という学習阻害の要因についてたずねたところ、「仕事が忙しく時間がなかった」50．9％、「それを学ぶ適当な機会や場がなかった」42．8％、「身近に利用できる施設や講師がいなかった」29．0％、「費用がかかりすぎる」24．6％、「どこでどう学ぶか、情報不足だったため」23．6％という結果となりました。これらの要因をみると、「ＰＲ」の重要性が浮かび上がってきているように見えます。有力なＰＲ方法について検討する必要がありそうです。

（３）富大の地域社会における役割

次に、富山大学に求められる地域社会に対する役割についてたずねました。その結果、「各種資格を取得する機会の提供」53．5％、「小中高校教師の資質向上の支援」49．7％、「地域産業・企業の支援」39．0％となっています。これをみると、資格取得等による市民の「自分づくり」の課題と、地域の教育的環境、経済的活性化の課題がうかびあがっていると言えます。特に、どのような「資格」の取得の支援ができるのか、教師や企業社会に対してどういう教育・研究的サポートが可能なのか、考える必要が出てきているようです。

3．富山市の生涯学習
広田克昭氏（富山市教育委員会市民学習センター・次長）にお話を伺いました

（1）現代の社会と生涯学習

現代の生涯学習の環境は、かつてとは大きく違います。地域に町内会、婦人会や青年団の組織が活発で、行政が指導しやすい時代がありました。ところが、今はそういう地縁的な組織が弱体化または機能が低下しています。「上から教え込む」やり方は時代にあわず、市民の「自由選択」から取り残されてしまいます。今、コミュニティの必要性をどう求めていくべきかを考えるときが来ています。

現在、富山市では「市民大学」を57講座実施しています。それぞれ、年間10回～15回の継続学習を特色としています。16年度からは講座の有料化がはじまりました。生涯学習がさけばれはじめた当初のころは、「いつでも、どこでも、だれでもが学べる」と、学ぶ広がりと啓発に重きがおかれましたが、今は、学ぶ場や方法に様々な選択肢が用意されています。こうした時代的変化により、民間で開催される他の学習機会との整合性を図る上からも、「受益者負担」という観点が必要となってきています。

（2）行政としての立場

民間の教育産業や大学など、学習機会が増えていますが、うまく棲み分けていく必要があると思います。現在の風潮として、学校教育重視の姿勢もまだ強いですが、行政としては、「受益者負担」と「充実した社会教育」とのバランスを考えた生涯学習政策を展開していくべきだと考えています。

とくに、場所や情報の提供など市民の学習活動を支援することを通して「行政」と「市民」が共に地域社会の発展を担う「協働」の考え方を培うことが、これから大切です。一つの好例ですが、「市民大学」で学ばれた方々から、約100くらいの数のサークル活動が生まれています。行政が生涯学習をまるがかえするのではなく、市民が主体的に学び、積極的に参画する意欲が高まるようにサポートすることが行政に求められることでしょう。

（3）これからの課題

当面の課題は、市町村合併です。生涯学習・社会教育は地域の特性をふまえた運営が重要ですので、「統合」の名のもとにひとくくりにできない面があります。それぞれの地域で個性的な持ち味を生かした運営を目指すべきでしょう。そして、それらが新市においてどう連携していくのか、という「個性・特性の尊重」と「体系化・一元化」とをどのように調整するかが課題になっています。

（2004. 6. 11. 於市民プラザ内）

4．会議報告（平成16年１月以降）

●運営委員会

（平成15年度）

◇第２回生涯学習教育研究センター運営委員会

開催日時：平成16年３月18日　10時33分～12時10分

議　　題：（１）平成15年度事業報告について

（２）平成16年度公開講座実施計画について

（３）平成16年度公開講座の受講料等について

（平成16年度）

◇第１回生涯学習教育研究センター運営委員会（持ち回り）

開催日時：平成16年４月１日

議　　題：次期生涯学習教育研究センター長の選考日程について

◇第２回生涯学習教育研究センター運営委員会

開催日時：平成16年４月28日　16時05分～16時25分

議　　題：（１）次期生涯学習教育研究センター長候補者の選考について

（２）次期生涯学習教育研究センター副センター長候補者の選考について

●公開講座専門委員会

（平成15年度）

◇第３回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会(持ち回り)

開催日時：平成16年１月15日

議　　題：平成16年度公開講座等の実施計画案の追加及び変更について

◇第４回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会(持ち回り)

開催日時：平成16年２月12日

議　　題：平成16年度公開講座等の実施計画案の変更について

●富山大学大学開放推進懇話会

◇第５回富山大学大学開放推進懇話会

開催日時：平成16年２月３日　14時00分～16時00分



発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960